

「能登の支援態勢、国が整備を」

JR東労組組合員の記事が掲載！

8月8日の毎日新聞(朝刊)に、JR東労組・桜庭知也さんの投稿が掲載されました。

能登の支援態勢、国が整備を

会社員 桜庭 知也42 (青森県)

労働組合の仲間と石川県珠洲市でボランティアに参加した。地震から半年で首相が復興応援割を発表したが、被災地は家屋が倒壊し道も塞がれ復旧していない場所があちこちにあった。半年たっても困っている方々への支援が何より政府のすべきことではないか？ 私たちは家屋の片付け、避難所の物資運搬、がれき撤去をした。まだ小学校を避難所として利用している方がいた。酷暑の中、段ボールで仕切られた所で生活しなければならぬのか？ 社会福祉協議会の方々も

暑いボランティアセンターで毎日元気に私たちに作業の指示をしてくれ本当に頭が下がった。「輪島市社協職員の残業が月の過労死ラインを超過100時間超えで復興を支える組織は限界に達している」との記事を見たが社協の方々の方がなければボランティアも成り立たない。支援態勢を国が整備すべきだ。1週間と限られた時間の活動で多くのことはできなかったが、仲間たちと共に何ができるのか考えていきたい。

2024年8月8日 毎日新聞(朝刊) 投稿欄「みんなの広場」より

抵抗とヒューマニズムを基底に

1日も早い復旧・復興をめざそう！